



国民の森林・国有林

中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>

広報

中部の森林



木曾ヒノキの生命力を学ぶ付知南小学校の児童（東濃署）、於 付知峡自然休養林

各地で小中学生を対象とした 森林教室を開催

(P 5 に関連記事)

主な項目	○ 低コスト作業システムの紹介 P 2
	○ 治山事業検討会と請負事業体安全研修会 P 3～4
	○ 各地からのたより P 6～8



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。



中部森林管理局における 低コスト作業システムの紹介

「販売課」 国有林においては、地球温暖化の防止等森林に対する国民の期待が高まる中、多面的機能の高度発揮を図るため間伐等の森林整備を積極的に行っていくこととしています。

こうした中で、当局では、平成十三年度から造林費活用型高齢級間伐の取り組みを始め、平成十七年度からは伐採系森林整備（保育間伐活用型、誘導伐、受光伐、保護伐）を推進しているところです。

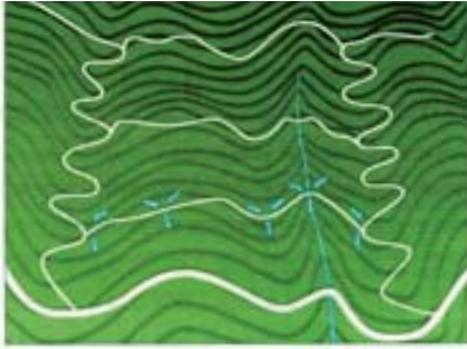
伐採系森林整備の円滑な推進に当たり、職員の共通認識の醸成を図るため、昨年度担当者を対象とした現地検討会を実施し、また、今年度は九月二十五・二十六日に職員、十月三日に県・緑資源機構・林業関係者等、十月十、二十日には富山県・岐阜県の関係者により、岐阜署管内の滝上・小川長洞国有林において低コスト作業システムに係る現地検討会を開催するなど、民・国が連携して伐採系森林整備を軸とした森林整備を推進するよう取り組んでいます。

伐採系森林整備を推進するに当たって重要なことは、搬出される間伐材については、価格が安いことから出来る限り低コストで搬出することが必要です。

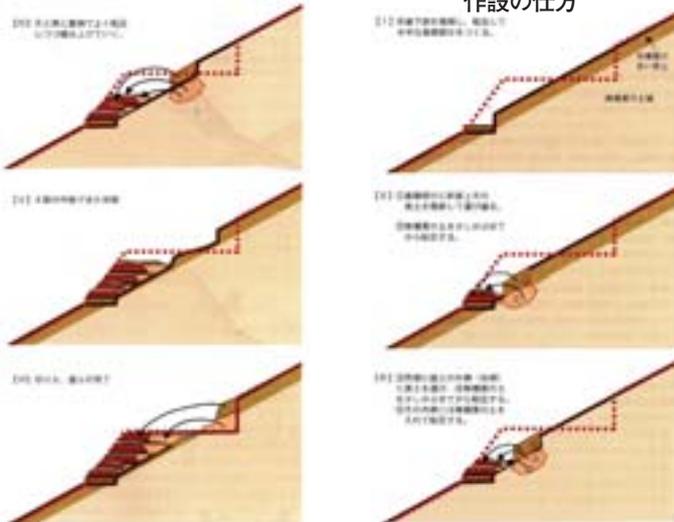
こうした中で、当局の取り組みとして、当局技術センターが実施していた低コスト作業システム（低コスト路網・高性能林業機械及び列状間伐の組み合わせ）のうち今回、低コスト路網作設（四万十町方式）について紹介します。

（合理的な線形設計）

水処理を工夫し、壊れにくい路網を作設するため、安定した尾根にS字状の登坂路を開設し、路面に集まる水を尾根の左右に分散させ、横断勾配も抑制します。等高線沿いには、傾斜の緩い柵をできるだけ通るように、また、集材距離を考へながら集材路を開設しています。



作設の仕方



（表土ブロック積み工法）

最も重要な開設技術が「表土ブロック積み工法」です。この工法は、最初に盛土を支える水平の基礎部分を掘削・転圧し、この基礎部分の上によく転圧しながら盛土し、これを繰り返して路体を作っていきます。その際、養分が豊かで種子も多く含まれた表土を盛土の外側に積むことで緑化を早めます。

この工法は、盛土の上も走行できるようにすること、また、地形に沿って開設することで、切り取り法高を抑え、道脇の立木も残置できます。

（現地資材で構造物）

間伐木や切り株、転石など現地で調達できる資材を活用し、洗越や土留等の構造物を作設することができます。



固定した切り株に丸太を渡して脆弱な路網保護



沢を渡る際には転石で洗越

最後に、低コスト生産システムを構築していくためには、路網と高性能林業機械を組み合わせた作業仕組が必要であり、今後間伐の推進に当たっては、各地域にあった低コスト作業システムを推進し、トータルコストの低減を図っていくことが必要と考えています。

稲垣三郎氏瑞宝単光章を受章

〔総務課〕平成十二年三月に富山森林管理署を定年退職された稲垣三郎氏（六十七歳）は、今年の秋の叙勲で瑞宝単光章を授与され、十一月八日農林水産省において伝達式が執り行われ、当日の午後、皇居で天皇陛下に拝謁されました。

稲垣氏は、富山署在任中の昭和五十七年以降現在に至るまで、国有林野自然保護指導員として立山連峰を中心に、高山植物、ライチョウなどの稀少野生動物植物の保護・保全、登山客や観光客に対する自然保護思想の普及・啓発活動、外来植物の除去、高山植物の再生などに従事するとともに、登山ルートの安全確保、登山におけるマナーの普及・啓発活動に当たってきました。

稲垣氏の二十五年に及ぶ活動は、立山連峰の自然環境を後世に引き継ぐべき貴重な国民全体の財産として維持するだけでなく、登山者の安全かつ健全な利用と生態系の保全を調和させながら自然保護思想の普及・啓発及び自然の再生に大きな功績を残しており、今後も立山連峰の山守としての活躍が期待されています。



勲記を手に小椋局長と

治山事業検討会と請負事業者安全研修会

**治山現地検討会を開催
七月集中豪雨被災箇所において**

〔治山課〕十月十八日から二日間に行われ、平成十八年度治山現地検討会を南信森林管理署管内で開催し、各署等から二六名が参加して治山技術の研鑽を図りました。

十八日は、横川国有林一〇五九林班の横川左岸支流瀬戸沢において平成十八年七月の集中豪雨により発生した新生崩壊地（延長 八〇〇以、面積 五・八〇以）とその下流の溪流荒廃地の現地調査を三班に分かれ実施し、溪間工・山腹工の工種配置等について復旧計画策定の検討を行いました。



現地説明を受ける参加者

翌日は、南信署会議室において前日の現地調査結果から、復旧対策・工種配置等を班毎に二時間に亘り熱心に検討・論議を行いました。

その後、班毎が検討をした復旧計画・工種配置等について代表者が発表を行い、各班の復旧計画・工種配置についての他、各班から質問が数多く出されるなど、今後、各署等において災害復旧対策の検討を行うに当たり、有意義な検討会になりました。

白川村が治山事業地を視察

〔飛騨署〕今年の七月に岐阜県白川村から治山事業の推進に向けた要望書の提出を踏まえ、治山事業のPRとして、庄川治山事業所主任及び白川森林官が村担当者と打ち合わせを行い、十月十九日に国有林野治山事業地視察会を実施しました。

当日は、谷口白川村長、松井村議会議長を始めとした議員、村役場担当者ら十一名が参加し、村内の治山事業地である大白川国有林（間名古谷）、帰雲国有林（名古谷）において、えん堤工を見学。署で作成した「くらしを守る治山事業」により、松井治山課長が説明を行いました。



意見交換をする参加者

また、新たな「森林・林業基本計画」についても、PR冊子を配布し説明を行いました。

参加者からは、「人目につかない山奥で、森林を守り村民の生命を守ってくれていることがよくわかった。」などの意見が聞かれ、こういった視察会に今後も取り組むよう要請があり、当署としても管内の市村に対する説明会を、今後も積極的に実施していくこととしています。

請負事業者への安全研修会開催

〔岐阜署〕十月二十五日、下呂市萩原町の星雲会館において林業事業者及び治山・林道工事に係る建設業界の請負事業者を一堂に会して安全研修会を開催しました。

これは、九月二十日に当署の治山工事で重大災害が発生したことに鑑み、当署管内の全ての事業者について、改めて安全意識の高揚と安全管理体制の構築を図



安全研修風景

る目的で実施したものです。
 出席者は各事業体の経営責任者とし、地元下呂、小坂地区をはじめ岐阜、揖斐、樽見方面からも出席をいただき、総勢四十名で研修会を行いました。
 はじめに、岐阜署長が労働災害防止は、経営トップの意識と、自らの取り組みが重要であると挨拶。その後、中部局から安全指導に来署された、森林整備部長、販売課長、治山課長からも指示をいただきました。

出席者からは、この研修会を契機に新たな気持ちで災害の防止に取り組んでいきたいとの感想を述べられました。

高山植物の

保護・保全

湿原回復作業に汗

「富山署」秋の色づきが残る十一月四日、南砺市の水無国国有林で、当署のボランティア隊員や地元「利賀飛翔の会」、「県自然保護協会」会員など二十七名が参加して、湿原の植生を守る保全整備作業を行いました。

水無湿原は、春の水芭蕉やリュウキンカを代表に四季折々に多様な植物が見られますが、乾燥化や灌木の侵入が進んだため、地元南砺市やボランティア団体等と協力し、復元作業に取り組んでいます。

当日は天候に恵まれ、参加者の中には初めて下刈鎌を持つ方もいましたが、安全指導のあと慎重にヤナギなどの萌芽の刈払いや、木製土留工の補修に汗を流し、予定の作業も午前中で終了しました。

昼食時には、県自然保護協会理事長から「毎回新しい魅力が発見できます。大切に見守りたい。」との感想が寄せられ、県山草の会会長は「湿性植物や高原植物が豊富で貴重な湿原です。」との話がなされる中、午後からは、周辺のブナ林を散策し、それぞれの先生からの解説があり、有意義なひとときとなりました。

今年、県道の通行止めが長期間とな



水無湿原の保全整備作業

り、予定していた春の観察会は実施できませんでしたが、来春の観察会での再会を約束して解散となりました。

飛騨市など地域と合同パトロール 〜天生国有林〜

「飛騨署」当署ではブナの天然林を始めたとした豊かな自然が残り、「天生高層湿原植物群落保護林」、「天生自然観察教育林」に指定されるとともに、「天生県立自然公園」に指定されている天生国有林において、十月十四日、環境美化と自然環境の保全を呼びかける合同パトロールを実施しました。

パトロールは紅葉の名所として、また、「天下御免」の白川村どぶろく祭りが開催され、土・日には入り込み者が通常の三倍近くなるこの時期、パトロールを強化して実施するもので、当日は天候にも恵まれ、湿原の散策のほかブナやカツラの天然林が紅葉した初糠山（一七四四）

への登山を約三〇〇名が楽しんでいるなか、当署のほか飛騨市役所、飛騨警察署及び飛騨市森林組合などから十名が参加しました。

登山者のマナーは年々向上し、ゴミのポイ捨てなどは見あたりませんが、植物の盗掘はまだ見受けられるといった意見もあり、貴重な植物が咲く春の合同パトロール実施についても検討することとなりました。

なお、登山道入り口では天生県立自然公園協議会（会長 船坂勝美飛騨市長）により「森林環境整備協力金」への協力も呼びかけられ、ほとんどの登山者は協力が歩道整備等に活用されていることなどに理解を示され協力金（五〇〇円）に応じており、利用者負担に対する意識の高揚が図られました。



パトロールの様子

各地で森林教室を開催

森林教室開催

【東濃署】毎年恒例となっている付知北小・南小学校の五年生を対象にした森林教室を十月六日・十八日の両日に行いました。

六日は、あいにくの雨となり、付知北小学校の体育館でパネルを使った森林教室や実験のあと、みんなでヒノキやミズメなどの丸太切りを行い、そこに思い思いに絵を描いたり文字を書くなどしてペンドラントを作製しました。この日のために、てるてる坊主を作って天気になるように子供達は祈っていたようですが、その思いが天に通じなかったようです。

十八日の付知南小は天気となり、加子母裏木曽国有林内で森林の働き等について学習、実験をした後、班ごとに分かれて「しでのき遊歩道」を散策しました。遊歩道の途中にキハダ、ミズメの丸太



水の浸透がわかったよ

を用意し、キハダの皮をなめては苦い顔をする子や、ミズメの匂いを嗅いだ子は、地元の病院の名前を出し、「病院の匂いがする。」と言っていました。中津川市の木でもあるコウヤマキの大木や木曾ヒノキの根上がりを見てその大きさにビツクリしていた子供もいました。

学校で森林の働きなどについて学習をしていることもあり、森林教室が終わったあとの質問も簡単には答えられないものもありました。これからもこの森林教室を地域の子供達との交流の場とし、森林に興味を持ってもらえるようにしていきたいと思えます。

森林の働きや大切さを学ぶ 環境教育

●名古屋市立汐路小学校

【名古屋事務所】

十月六日、五年生一一九名を対象に「森林の働き」と「飛ぶタネ」についてパワーポイントによる森林教室を汐路小学校で行い、その後、四種類の樹木の種の模型をつくり、実際に飛ばして種の特徴などを学びました。

●名古屋市立志段味西小学校

十月十七日、瀬戸国有林、森林交流館周辺において、五年生一二〇名を対象に森林散策、丸太切り体験、木工クラフト作りを行い、自然の中で一日を過ごししました。今回の教室は春に続いて二回目と

なり、年三回を計画しているため次回は十二月に実施を予定しています。



森林教室に参加した志段味西小学校生

●西尾市立西尾中学校

十月二十五日、一年生九名が、総合学習のテーマとして取り組んでいる環境問題について学ぶため、名古屋事務所を訪れました。九名は森林の伐採による砂漠化や森林の減少について関心を持っており、職員から森林の機能や間伐の必要性について説明を受け森林、林業の大切さを学んでいきました。

●瀬戸市立水野小学校

十月二十七日、五年生を対象に森林の働きについて、尾張森林官による森林教室を水野小学校で行いました。スポンジや山の模型、イラストなどを使いユニークな森林教室で児童の関心を引きつけていました。

また、十一月七日には、四年生六一名を対象に飛ぶタネの話とタネの模型づくりを行い、実際にタネを飛ばし、特徴について学びました。

●名古屋市立旗屋小学校

十月三十一日、四年生・六年生までのエコチャレンジクラブの八名が名古屋事務所を訪れ、パワーポイントによる森林の働きについて学んでいきました。また、十一月十四日には学校を訪問し、木工クラフト体験を行いました。少ない時間の中で工夫を凝らし、思い思いの作品ができ上がりました。

活発な意見交換が グリーンボランティア・サミット

【指導普及課】十月二十五、二十六日、管内の国有林や民有林において活動しているボランティア団体等を対象にして「グリーンボランティア・サミット」を、愛知県瀬戸市の定光寺自然休養林において開催しました。

紅葉までには少し早い秋空のもと、長野県・岐阜県・愛知県からボランティア三十名及び森林管理署等の森林ふれあい係長等二五名の合計五五名が参加しました。

定光寺自然休養林の駐車場において、開会式を行った後、参加者はボランティア活動に役立つ「野外活動における救急

法」、「ロープワーク」、「ネイチャーゲーム」の各ワークショップにそれぞれ分かれて指導を受けました。

ロープワークでは、なかなか結ばずに講師から手取り足取り教わっていました。

救急法では「救急法は受講したことがなく、次回も実施して欲しい。」との意見がだされました。また、「次回も活動時に役立つ内容をお願いします。」との声も聞かれ、有意義なワークショップとなりました。



いざという時のために！救急法

二日目は、愛知県労働者研修センター（サンパレア瀬戸）において、森林づくり部会と森林環境教育部会に分かれ、普段行っている活動内容や、活動する上で苦労話などが報告され、「仕事が多忙で、活動時間がなかなか取れない。」「メンバーの年齢が高齢化してきており、いかに若い世代に関心を持たせたらよい

のか。」などの意見のほか「現在は、局が主体となってサミットを行っているが、もつとボランティア側の主体で準備を行うなど、努力すべきではないか。」等の活発な意見交換が行われました。

活動報告会の後、定光寺自然休養林内の自然散策が行われ、定光寺の生い立ち、植生について名古屋事務所・愛知所の案内で、自然観察を行い、充実した二日間の幕を閉じました。

各地からのたより

赤沢自然休養林で交流会

「ながの緑のオーナー友の会」

【国有林野管理課】十月十三日、第十八回「ながの緑のオーナー友の会」（田澤会長）の総会が、長野県木曽郡上松町の赤沢自然休養林で開催されました。

この友の会は、長野県内で分収育林契約をされている方々が、分収育林を通じて親睦、森林とのふれあいを目的に、趣旨に賛同した方が集う会で、オーナーの方たちにより運営されており、会員は約四〇〇名。毎年、管内の自然休養林等で総会を兼ねた交流会が開かれています。当日は、約八〇名の方が参加し、国有林野管理課及び木曽署の職員も現地案内等で同行し交流を深めました。

総会に続く交流会は、分収育林箇所の



参加した緑のオーナーの皆さん

見学・天然林の探訪コースと、森林鉄道の乗車・遊歩道の散策コースの二コースに分かれ、爽やかな秋晴れのなか森林浴を楽しみました。

参加された方の約五割は東京方面からの参加であり、バリアフリーの散策コースなど年配の方や車椅子の方も気軽に訪れることができる自然豊かな休養林を紹介することができました。

ブナの森で遊ぼう！

第五回カヤの平高原

ネイチャーゲームトレック

【北信署】十月十五日は、全国一斉ネイチャーゲームの日として、全国で何千人もの人達が自然体験を楽しんでおり、ここ、カヤの平高原でも県ネイチャーゲーム協会との共催により、地元北信地域の小学生を対象に「第五回カヤの平高原ネイチャーゲームトレック」を開催し

ました。

ネイチャーゲームは、いつでも、どこでも、だれでも、五感を使つての自然体験ができるプログラムで、いろいろなゲームを通して、自然と自分が一体であると感じることを目的としています。

今回は、紅葉が最盛期のなか、秋晴れの好天気にも恵まれ、全体で十数名という参加人数でしたが、はじめは、緊張して遠慮しがちな子供達も、ヒントをもらい動物や昆虫をあてるゲームになると大人も、子供も大きな歓声をあげ、大はしゃぎをしていました。

また、森林のことを、わかりやすく知ってもらうために、何種類かのゲームを行い、五感をつかつてのゲーム、例えば、特徴のある木を先に選んでおき、二人一組で一人は目隠しをして、もう一人が誘導しながら樹皮を触り選んでおいた木を探すゲームなどを行いました。

今回の体験から森林から人間の生活に必要な水やきれいな空気、そして、食べ物等をプレゼントされていること等ゲームを通じて思い切り遊び、楽しみ、森でやってはいけないルールなどを体験し、学んだと思います。

最後に、署長から、「たくさん遊べましたか？」「また、カヤの平のブナに会い来て下さいね。」「これから森と仲良くして下さい。」「という問いかけに、ありがたうございました。また来ますという大きな声であいさつをしていました。

(7) 平成18年11月



たのしいね、ネイチャーゲーム

当署では、地域の皆さんや地元の子供達に森林の働きや管理署の存在をアピールするために！ 今後とも森林環境教育におけるフィールドの提供と、諸活動に対して積極的な取り組みをしていこうと考えています。

佐久地区森林祭

〔東信署〕 秋晴れの十月二十一日、長野県佐久地方事務所、東信森林管理署、御代田町、佐久森林業振興会、佐久森林組合の五団体が主催する、「平成十八年度佐久地区森林祭」が御代田町森泉（長野・東京ガスの森）で開催し、林業関係者、御代田北小学校、白田高校、森林ボランティア団体、一般参加者など約二〇〇名が参加し育樹作業を行いました。この催しは、佐久地域の緑化の推進と森林資源の育成、並びに地域住民の森林整備に対する意欲の高揚を図るため、



〔長野・東京ガスの森〕での森林祭式典

森林林業関係団体が協力して毎年開催しており、今年で十七回目を迎えました。育樹作業に先立って式典が行われ、主催者を代表して大西東信森林管理署長が挨拶し、国内の森林資源の充実を歓迎し、用拡大を図って国産材の復活を目指し、併せて国民の森林に対するニーズの多様化に応えた森林づくりに官民一体となって取り組むことを呼びかけ、その後、土屋御代田町長の歓迎の挨拶、また開催地主である東京ガス高桑環境部長から歓迎の挨拶と森と自然環境の大切さを体験しながら学ぶことができるよう整備された「長野・東京ガスの森」の概要と風力及び太陽光発電や節水型トイレなど環境への影響に配慮するとともに信州カラマツ材を用いて作られた管理棟の概要が説明されました。

育樹作業はヒノキ林を主体とした針広混交林の森づくりを目的とし、ノコギリによる除伐、枝打ち、つる切りを行いました。作業後の昼食時間には、「森の」聞き書き甲子園」に参加した白田高校の生徒による、森林の持つ公益的機能等について、若者としてのみずみずしい感性と感動にあふれた発表が行われ、世代間を超えて交流することができました。

東山道もみじまつり

〔東濃署〕 十月二十二日、地域発案システムの取り組みとして、中津川市の「東山道もみじまつり」に協賛し、東濃署の特色や取り組みについてPRを行いました。

このまつりは、当署の湯舟沢国有林が所在する神坂地区で毎年開催されていますが、今年度は同国有林を積極的にPRするとともに、地域の活性化に国有林を活用してもらおうと取り組みました。

まつり当日は、「もみじ狩りとウォーキング」と題して紅葉の始まった国有林内へ市民の方々を案内し、その途中にあるふれあいの森や巨樹巨木百選の神坂大檜、姥ナギ沢で続けている山腹工事箇所も見学いただきました。

参加者の皆さんは、それぞれ紅葉の美しさを楽しみながら、職員が説明する巨木の保全活動や治山工事の概要等に耳を傾け、自然を守る地道な取り組みに感心



ウォーキングに参加した皆さん

する声が聞かれました。また、まつりのメイン会場では職員によるネームプレート作りに人が集まり、展示した三縮切り根株や署の取り組みを紹介したパネルを熱心に見入る人も多くいました。

第十三回名古屋CF事業

〔名古屋事務所〕「林内に光を取り込み健全な森林に育てよう」をテーマに、第十三回名古屋シティ・フォレスト事業を十月二十八日愛知所管内の八曽国有林で実施しました。

八曽国有林は自然休養林となっており、キャンプ場を利用したりハイキングに訪れたりする人で、夏場を中心に毎年賑わっています。作業地は、キャンプ場のすぐ近くにあり、林内が暗く密生している十八年生のヒノキの林分を対象に十八名が参加し間伐作業を行いました。

当日は、十月としては暑い日となり、参加者は汗だくになりながら間伐木をゆつくり丁寧に、安全を確認しながら伐倒を行いました。最初は薄暗かった林内も間伐が進むに連れ光が入り、徐々に明るくなっていきました。



間伐作業を終えて

昼休みには地元犬山市の「オカリナ・ポッポス」によるオカリナの演奏会が行われ、疲れた体をやさしいオカリナの音色が癒やしてくれました。

参加者も作業後の林内を見て「ずいぶん明るくなった。」と満足感と達成感を実感していました。

定光寺自然休養林を

楽しみながらの散策

「JRさわやかウォーキング」

「名古屋事務所」十一月十三日、JR



オカリナ・ポッポスの演奏

東海のさわやかウォーキングが定光寺駅から中水野駅まで約八キロの間で開催されました。参加者は、定光寺自然休養林の中を深まりゆく秋を感じながら一日のんびりと散策を行いました。

中継地点となった森林交流館では、参加者が一休みする休憩ポイントとして、昼食を食べたり、森林交流館を見学したりと終日大勢の人で賑わいました。

名古屋事務所では、参加記念として職員手作りの竹炭とサクラの小枝を利用したストラップを用意し、訪れた参加者に配布しました。

当日は、北風の吹く寒い日となりましたが、十時からの配布時間前にはすでに長蛇の列ができ、用意した二百個の記念品は瞬く間になくなりました。

また、森林交流館のウッドデッキでは森の音楽会として、犬山市の「オカリナ・ポッポス」によるオカリナの演奏会が行われ、ウォーキングに訪れたグルー

秋のイベント大盛況!

プや家族連れは、オカリナの奏でる曲に耳を傾け演奏に聴き入っていました。

「名古屋事務所」秋晴れが続いた十月から十一月にかけて、名古屋市内及び名古屋近郊の各地にて秋のイベントが開催されました。名古屋事務所から、パネル展示やパンフレットの配布、木工クラフト、丸太切りなどの体験コーナーを出展し、森林・林業、国有林のPRを行いました。

十月十五日、「尾張旭市民祭」が開催され、ツバキの輪切り板を使った、ステンシルやサクラの小枝を利用したストラップ「モックン」作りを行いました。家族連れや友達同士のグループなど大勢の人が訪れ自然のものを使ったクラフトに喜んでいました。

また、十月二十一・二十二日に大府市にあるウッドビレッジにて開催された「森の感謝祭」では、丸太切り体験と鉛筆立て作りを行いました。さらに十一月三～五日にかけては、名古屋市内の愛知県体育館で行われた「ふるさと農林水産フェア・秋」においても丸太切り体験コーナーをボランティア団体の中日森友隊の協力を得て実施しました。

どのイベントも職員が休む間もないほど大盛況で、特に「ふるさと農林水産フェア・秋」では三日間で六〇〇人以上の人が丸太切りの体験を行い、用意したヒ

ノキの間伐材が足りなくなるのでは、と心配する程でした。各イベントとも子供の参加が大半を占め、木の良さや木の温もりを感じる絶好の機会となりました。



大勢の子供達でにぎわったイベント

行事・会議等の予定

◎本庁監査

12月11～15日 中部森林管理局管内

◎国有林野直轄治山ヒアリング

11月30日～12月15日

中部森林管理局

◎収穫打合せ会議

12月4・5日 中部森林管理局

◎地域管理経営計画等検討会

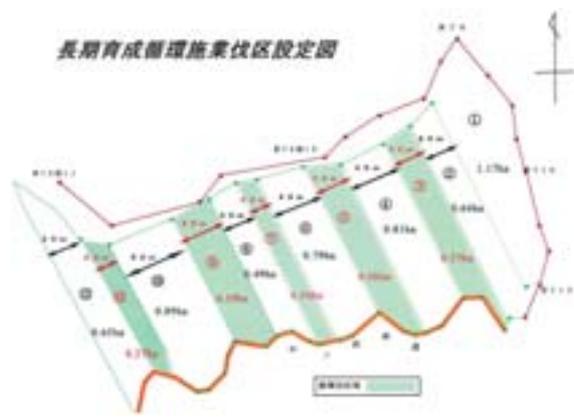
12月22日 中部森林管理局

シロイヌ
実験林・試験地等紹介

「長期育成循環施業試験」

森林技術センター

長野県木曾郡上松町の小川入国有林内で、木曾ヒノキの代替材生産を目的に、人工林ヒノキの長伐期施業を展開している中で、高齢級の常時複層林に誘導するため、帯状に伐採を三段階に分けて行い、三段の複層林を仕立てる施業試験を開始しました。伐採幅を樹高幅（二〇以上、樹高の一・五倍幅、樹高の二倍幅と設定



樹高幅（20m）帯状伐採地

置しない区域を設定し、カモシカの嗜好性を利用した混植試験を試みました。

今回の試験では、木曾五木の内、カモシカの食害が少ないとされているサワラを混植することとし、一・五以上等間隔のヒノキとサワラの交互植え、ヒノキとサワラ各一本の寄せ植えとし、ヒノキだけの植栽箇所と比較しました。

し、伐採後の植栽木を育成する環境に変化をつけ、諸害に対する抵抗性や光環境調査、植栽木生長量調査を行うこととしています。

最初の伐採はすべて終え、今春植付けを終了しました。木曾地方は特にカモシカの食害が多く、対策として防護柵を張り巡らせる必要があり、経費の負担も多くなっています。このため試験地内において低コスト造林を目的に、防護柵を設

したが、寄せて植えたものは、サワラによってヒノキを守りカモシカの食害はありませんでした。現段階ではサワラがカモシカに対して忌避効果を持っているように思われます。しかしながら、現地においてはヒノキ植栽木が、ウサギの食害に遭い、ウサギに対しては寄せ植え効果が得られない状況となっていますが、ウサギもサワラをあまり好んで食さないようなので今後試験を重ねたいと考えていま



ウサギによる食害

す。

資源の循環利用を目指す上で多くの課題がありますが、森林の持つ公益的な機能を更に増進させつつ、研究を継続し施業体系の確立を目指したいと考えています。





「信仰の山 本宮山」

「愛知所」新城市と岡崎市、豊川市の境にそびえる本宮山。

三河高原の南西の端に位置し、山頂からは三河湾、遠州灘を一望し、天気の良い日には遠く富士山を望むことも出来ます。

愛知所から眺める標高七八九^{メートル}の本宮山は、北側にそそり立つ山脈の西端にひときは高くそびえ、数多くのアンテナが立ち並ぶ姿が印象的です。

本宮山の裏側(岡崎市側)には、^{くわがわ}閼菟国^の有林が所在し、その中を流れる谷川を閼菟溪谷と称し、観光地にもなっています。

名古屋、岡崎、豊川、豊橋から訪れる市民で五月のゴールデンウィークから紅葉シーズンの十一月まで賑わいを見せています。

閼菟溪谷では、マス釣りや、マスのつかみ取りが出来るほか、キャンプ場やバンガローも設置され、キャンプやバーベ



本宮山に立ち並ぶアンテナ群



頂上にある砥鹿神社の奥の院

キユーを楽しむことが出来ます。また、森林浴を楽しみながら歩けるハイキングコースも整備され、訪れた観光客から好評を得ています。本宮山の山頂には、三河一宮として知られる砥鹿神社の奥の院があり、豊川市一宮町の登山口から奥の院までの本格的な登山コースがあります。この登山コースは修験者が修行のため

に登山した道でもあり、最近では登山道の登り口付近で温泉が掘り当てられるなど、新しい観光スポットも出来ました。本宮山山頂へは登山道を歩くほか、閼菟溪谷を歩くルート、そして本宮山スカイラインを車で走るルートがあります。本宮山スカイラインは本宮山の山頂付近を走る道路で、その眺めは大変にすばらしいものです。

◇アクセス

岡崎市側のコース(名鉄本宿駅から閼菟溪谷バス50分)

豊川市側のコース(JR飯田線長山駅へ頂上まで徒歩2時間30分)

*車の場合

名古屋方面から来る場合

東名高速道路岡崎インターより閼菟溪谷方面へ

静岡方面から来る場合

東名高速道路豊川インターより国道151号線を新城方面へ、国道301号線経由し、本宮山スカイラインへ